

弊社製品を安全にご使用いただくための注意事項

弊社製品の特長を生かし、安全にご使用いただくため、ここに記載する注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。お守りいただけない場合、負傷する危険や物理的損害が発生するおそれがあります。

⚠ 警告	死亡または重傷を負う可能性がある状態。
⚠ 注意	軽傷または中程度の傷害を負う可能性がある危険状態及び物的損害のみが予想されるような危険状態。

△注意 弊社製品は、一般工業用途向けに開発、製造されたものです。医療・医薬用途、その他の安全面での配慮を必要とする用途へのご使用に際しては、ご使用者様にてその安全性を事前に試験及び確認のうえ、ご使用ください。

弊社は、この用途に関連する適応性及び安全性についての保証は致しません。また、一切の責任を負いません。

なお、体内に埋植、注入する用途、或いは体内に一部が残留する恐れがある用途には絶対に使用しないでください。

注) 文中の※印につきましては、ホームページの用語説明をご参照ください。

トヨトップ-Eホース

- 屋外、もしくは直射日光が常にあたる場所で使用しないでください。紫外線により表面にベタツキやヒビ割れが発生する可能性があります。
- 使用流体は、樹脂ペレット等の粒粉体です。その他の流体には使用しないでください。
- 飲用、食品用、メディカル用途（医療・医薬）には使用しないでください。
- ホースは使用条件により※2可塑剤などの配合剤等が抽出・溶出することが想定されますので、使用条件や製品への影響を事前にご確認の上で使用ください。
- 使用温度範囲内でご使用ください。
- 使用圧力範囲内でご使用ください。
- 負圧使用範囲の目安として「真空圧参考領域（ホームページ用語説明 図1）」をご参照ください。
- ホース※3最小曲げ半径以上でご使用ください。
最小曲げ半径未満でご使用になるとホースが折れ曲がったり、耐圧力の低下につながります。
- 粉・粒体を流される場合は、条件によって摩耗しやすい場合がありますのでホースの曲げ半径をできるだけ大きくとってください。
- このホースは帯電防止配合ですが、導電糸を接地（アース）することをお勧めします。
導電糸を接地（アース）する場合は、専用のアース用クリップあるいはアース線等で接地（アース）されている設備・建造物に接続することが必要です。
- 導電糸活用時には、定期的にテスター等で導通確認をしてください。導電糸は静電気の帯電防止用ですので、他の目的で電流を流すことは絶対にしないでください。
- 裸火に直接ふれたり、近づけたりしないでください。引火物（ガソリン・溶剤等）の周辺では、使用しないでください。
- ホースの寿命は流体の物性、温度、流速、加圧、減圧の頻度に大きく影響をうけます。
始業前点検、定期点検で次のような異常や、その兆候が認められた場合、直ちに使用を中止し、新しいホースと交換してください。
○ 継手付近の異常……局部的な伸び、湾曲、漏れ、ふくれ、継手への差し込みが浅くなった
○ 外傷の有無……外面の大きな傷、ヒビ割れ、補強層への浸水、補強材の割れ
○ 内面の異常……内面のふくれ及び※5剥離・摩耗（ホースの補強糸の露出）
（注）内外面の異常の場合、流体物中にホースの剥離物や補強糸の断片が混入する恐れがあります。
○ その他変化が著しい場合（硬化、※6膨潤、ヒビ割れ、ふくれ等）
- 屋外もしくは直射日光のあたるところでの保管はしないでください。ホース表面のベタツキやヒビ割れ等、品質劣化の原因になります。湿度の低い、風通しの良い場所に保管してください。また、ホース内に異物・ホコリが入らないように保管してください。
- 保管時には、他の塩化ビニール製品との接触や、ゴム製品の近くに保管しないでください。
- ホースカットの際、ホース端面が垂直になるようにカットしてください。垂直でない場合、漏れ・抜け等が発生する恐れがあります。
- ホースニップルはホースサイズに適したものをご使用ください。
また、ニップルの表面に傷・錆等のあるものは使用しないでください。
- ホースバンドの取り付けが必要な場合は、スパイラルワイヤーバンドをご使用ください。
ホースバンドをご使用の際、過剰に締付けますとホース内外面を切り、ホース破裂が発生する場合がありますので、おやめください。
- ホースをカットする場合は、外面の補強材の端末が鋭利になり、ケガをする危険がありますので、取扱いには充分ご注意ください。
ホース外面の補強材が鋭利になったり、飛び出している場合は、ハサミやニッパー等で端面処理を行ってください。
- ホースバンドは適宜増し締めを行ってください。バンド締め部の樹脂の歪みにより流体漏れやホース抜けの恐れがあります。
- 焼却しないでください。焼却時に焼却炉を傷めたり、人体に有害なガスが発生する場合がありますため、産業廃棄物としてお取り扱いください。
- 廃棄の場合は、それぞれの地域の分別処理に従ってください。